

日本語における温度感覚に関する概念メタファー

その他のタイトル	Interpersonal Cognitive Metaphors for Temperature Sensation
著者	劉 俊蘭
雑誌名	千里山文學論集
巻	103
ページ	157-165
発行年	2023-03-01
URL	http://doi.org/10.32286/00027934

日本語における 温度感覚に関する概念メタファー

劉 俊 蘭

1. はじめに

触覚で経験される「熱い」「あたたかい」「冷たい」が触覚をあまり感じさせない人間の感情、性格、集まる空間をメタファー表現として表すことができる。本稿では、Lakoff and Johnson (1980) における概念メタファー論を、メタファーを分析する際理論的枠組みとして採用する。そして、温度感覚を表す「熱い」「あたたかい」「冷たい」を考察の対象とし、日本語にどのような温度感覚の概念メタファーが存在するのかを考察していく。このテーマの先行研究としては、次節で述べる。

2. 先行研究

2. 1 「熱い」「あたたかい」「冷たい」の意味記述

まず、辞書における「熱い」「あたたかい」「冷たい」の意味記述を確認する。『大辞林』第三版では、以下のように載せられている。

- ・あつい [熱い]
- ①⑦温度が高くて、触れにくい状態だ。
⇔冷たい「－・い湯」「お茶は－・いのがいい」
①体温が高いように感じられる。「熱が出て体が－・い」
- ② (比喩的に)
⑦熱情のために、燃えるように感じられる。わき立つようだ。「－・い

血潮」「－・い思い」「興奮して－・くなる」

①多くの人々の強い関心を集めている。「－・い視線を注ぐ」「今、中国が－・い」

②（「お熱い」の形で）熱愛している男女を、からかいの気持ちを込めていう語。「お－・い仲」「改まった気持ちで表現する場合、連体形には文語形を用いることが多い。「熱き涙」「熱き血潮」

〔派生〕－が・る（動ラ五〔四〕）－げ（形動）－さ（名）

『大辞林』第三版（2006：52）

・あたたかい〔暖かい・温かい〕

〔形容動詞「あたたか」の形容詞化したもの。近世以降の語〕

①気温や温度が程よい。あたたかい。「－・い日さし」

②金銭が十分ある。あたたかい。「懐が－・い」

③愛情や思いやりがある。⇔冷たい「－・い手をさしのべる」

〔派生〕－げ（形動）－さ（名）－み（名）

（同上：49）

・つめたい〔冷たい〕

①物の温度が低くてひややかである。⇔熱い「－・い飲み物」「風が－・い」

②愛情や思いやりがない。やさしさ・あたたかさがなく。冷淡だ。⇔あたたかい「心の－・い人」「－・い仕打ち」「わざと－・く当たる」

③寒い。「いと－・きころなれば/枕草子184」→寒い（補説欄）

〔派生〕－が・る（動ラ五〔四〕）－げ（形動）－さ（名）

〔句〕冷たい戦争・冷たくなる

（同上：1694）

辞書の意味記述に基づいて、「熱い」「あたたかい」「冷たい」は物理的な温度感覚の基本義だけでなく、「熱い」の②の意味は熱情、関心、恋愛を表すことが確認できる。「あたたかい」と「冷たい」の③は愛情や思い

やりの意味も確認できる。

2. 2 温度感覚メタファーの先行研究

次に、メタファーにおける「熱い」「あたたかい」「冷たい」を考える。温度感覚メタファーとして Grady (1997) では、AFFECTION IS WARMTH 〈優しさがあたたかさ〉、Kovecses (2002) では、ANGER IS FIRE 〈怒りは火〉、LOVE IS FIRE 〈愛は火〉、ENTHUSIASM IS FIRE 〈熱意は火〉というメタファーが挙げられている。日本語におけるメタファー研究では、大石 (2007) では、日本語において感情を描写するとき用いられる比喩的な表現を分類した。その中で、温度感覚に関するメタファーは〈感情は熱〉〈興奮は熱〉という二つが挙げられている。鍋島

表1 「あたたかさ」に関するメタファー

サキ領域	モト領域	基盤
愛情	暖かさ	愛情と接触による身体の温かさの相関

(鍋島 2011 : 51)

(2011) によって、「あたたかさ」に関するものを確認できる。

松浦 (2017) では、〈興奮は熱〉〈恋愛は火〉〈優しさはあたたかさ〉における「熱い」「あたたかい」「冷たい」を考察した。温度感覚の概念化には、温度感覚を生起させる発生源、温度感覚を知覚すると捉えられる感覚主体、温度感覚について判断する観察者が関係すると主張した。

3. 身体経験における「熱い」「あたたかい」「冷たい」

人間は温度感覚に対して様々な捉え方をしている。例(1)と(2)は、身体経験における「熱い」「あたたかい」「冷たい」の用例である。

(1)どくんどくと動いている心臓の音や、乱れた呼吸がなおさら聞こえてくる。限界まで頑張ったのだ、無様でも仕方ない。身体が熱い

のが自分でもわかった。

(BCCWJ LBp9_00081)

- (2) 外は寒い冬の季節だったので抱きしめたときとても子どもの体が冷たかった……。けれど抱きしめることで子どもの身体が温かく感じました。子どもも抱きしめられることで愛されてるママと安心から涙が出たようです。

(http://www.wp-canon.com/enjoy/grow/post_50.html)

(1)は、人間自体が走るという活動をすることで体温が上がり、感覚主体にとって自身の身体が「熱い」と捉えられていることを述べている。我々は、何かの激しい運動などの行動をすると、興奮状態になることを経験している。(2)では、寒い夜に「冷たかった」子どもの身体を親が抱きしめることで保護され、「温かく」感じる様子が、感覚主体である母親の視点から描かれている。子どもは、抱きしめられることによって人肌のあたたかさを感じる。人間にとって生まれて初めて感じる物理的なあたたかさが親の肌のあたたかさである。そもそも、人は、愛情がなければ、人肌の熱を感じるほどの接触をすることもない。経験基盤として、人間は抱きしめられることによって保護され、人肌にあたたかさを感じる事が確認できる。

4. 温度感覚に関する概念メタファー

以下、温度感覚が具体的にどのような概念領域と結びついているのかを検討する。

4. 1 〈感情は熱〉

〈感情は熱〉という概念メタファーが実在していることは、(3) のようなメタファー表現から推測できる。

- (3) a. 私の胸のなかには、私にとってはまだ未知の世界からでてくる、

それまでに味わったことのない不思議な感情が熱く湧き上がってくるのでした。

(BCCWJ LBe9_00218)

- b. 資金がない。仕事と家庭が両立できるかどうかわからない。時間の確保ができない。夫が賛成するかどうか。引っ越してしまいうかも。自分の気持ちが冷める。能力の限界。体力の限界。単なる夢で終りそう。

(BCCWJ LBp3_00020)

- c. 彼が、夕オに傷付けられたのはまだ昨日だ。夢也を永遠に失くしてしまったのだと恐怖に凍りついたのは、ほんの昨日の出来事だ。

(BCCWJ PB19_00051)

4. 2 〈愛情は熱〉

〈感情は熱〉の下位メタファーとして、〈愛情は熱〉という概念メタファーが存在する。「熱い」は「愛情」という感情領域へ写像される。このメタファーは、我々の生理反応を含む身体経験を基盤とする。例えば恋人同士は手をつないだり、腕を組んだりして常に肌と肌とがふれあうことにより、二人の間の体温がおのずと高くなる。

- (4) a. 「熱愛・半同棲」と報じられた熱い〜いカップルは、あれから5カ月、少しも冷やめることなく月日を重ねてきたようである。

(BCCWJ PM51_00359)

- b. 一度嫌なところを見つけると、だんだん嫌なところを見つけてしまいます。愛情が冷めるのって早いですよ。

(BCCWJ OC09_14408)

4. 3 〈興奮は熱〉

〈感情は熱〉のもう一つ下位メタファーとして、〈興奮は熱〉という概念メタファーが存在する。「興奮」などの感情をもつとき、あるいは激しい

活動に取り組んでいるとき、生理的反応として身体から熱が出る。この概念メタファーから生ずるメタファー表現には、(5)に見られるようである。

(5) a. 興奮がさめる

- b. 何試合か進み、だんだん優勝のゆくえがしぼられてきた。スタンドの声援もそれにつれて熱くなってくる。

(BCCWJ LBs7_00071)

- c. 桃介は土佐出身の青年政治家でもあり自由思想家でもある馬場辰猪の演説を浅草橋まで聞きに来ての帰り道、自由思想の演説を聞いて少し興奮したのか身体が妙に熱くなり、隅田川を渡る風で頬を冷やしていたのである。

(BCCWJ LB02_00041)

4. 5 〈怒りは火〉

怒りという感情が生じる際の生理的反応の一つとして、体から熱が放出され、体温が上昇するというものが挙げられるが、これが〈怒りは火〉というメタファー的写像が成り立つ経験的基盤であると言える。以下の例はいずれも「火」という起点領域がメタファー的に〈怒り〉という目標領域に写像されることを表している。

- (6) a. 誰も私を認めもせず、見てもくれなかった。少女時代からずっと溜めこんで来た怒りが、メラメラと炎を上げて燃え上がるのがわかった。

(BCCWJ LBc9_00114)

- b. 今まで彼女に捧げていた敬意も感謝ももはや尽き果てた。本当は身を焼くほど怒りたかった。

(BCCWJ Lbt9_00223)

- c. しかしシムグラが無口で、つまらない言葉の一言一言が、彼を烈火のように怒らせることはたしかに忘れていた。一時間くらいあとで、シムグラは立ち去る気になっていた。

(BCCWJ LBk9_00118)

4. 7 〈優しさはあたたかさ〉

〈優しさはあたたかさ〉という概念メタファーを考察する。このメタファーから(7)のようなメタファー表現が生ずる。

- (7) a. それを聞いて、日本人の女性は非常に恥ずかしがってしまったのだが、完全に見知らぬ外人に対して、このような申し出をしてくれるという東北地方の人たちのもっている温かい気持ちは、このユダヤ人たちのグループには非常に強烈な深い印象を与えてくれるのに十分だったのである。

(BCCWJ OBOX_00016)

- b. 卒業後、一時映画会社に入社したが、ラジオ東京（現在のTBS）に入社し、定年まで勤めた。心の広い温かい人柄で、多くの後輩に慕われていた。

(BCCWJ PB57_00231)

5. 温度感覚は対人認知メタファー的意味の実現の制約

(8)～(10)は、「熱い」「あたたかい」「冷たい」は、「人」概念化される用例である。

- (8) 矢沢永吉に惚れていて、大仁田厚を尊敬していて、長渕剛もけっこう好き。アントニオ猪木も長嶋監督も野茂英雄もイチローも、熱い人たちはみんな好き。

(BCCWJ: LBn2_00058)

- (9) そんな時、何かの縁で知り合ったフランス人の男の子の実家、ノルマンディに行く事になり、そこで何か月か暮らしたそうで、私に「あそこのファミリーはとても温かい人達だから、訊いてみてあげよ。僕はあの人達のこと、今じゃ本当の家族のように思うほどだ

よ！」と、まだ見ぬ人達の人柄を私に想像させた。

(BCCWJ: LBr3_00058)

- (10)無認可だから、認可だから、金髪だから、黒髪だから、何も関係ありません。無認可で金髪でも、子供に愛情深い保育士もいれば、認可で、すごい大卒のエリート保育士でも、子供に冷たい人もいます。実際には、どれだけ気配りができるか、ということですが、そればかりは外見だけでは計ることはできません。

(BCCWJ: OC10_00951)

(8)「熱い人」、(9)「温かい人」、(10)「冷たい人」、では、同じく「温度感覚形容詞＋名詞」の用法ですが、メタファーの意味が異なる。(8)自分の情熱を注ぎつくすようにし、物事に取り組んでいる人である。このメタファー表現の身体性基盤は、情熱などが高まると、人間の体温が上がり、身体が熱くなることである。(9)と(8)に基盤は触覚において人肌の身体接触によって熱を感じるということである。

6. おわりに

〈感情は熱〉〈愛情は熱〉〈興奮は熱〉〈怒りは火〉〈優しさはあたたかさ〉という温度感覚に関するメタファーが存在する。しかし、温度感覚を表す「熱い」「あたたかい」「冷たい」は感覚をもたらす原因により、メタファー的意味の実現に違いが生じる。「熱い」は生理的反応として身体から熱が出るという身体経験を基盤とする。「あたたかい」「冷たい」は、人肌の身体接触によって温度を感じるという身体経験を基盤とする。

これらの概念化のプロセスを通して「熱い」「あたたかい」「冷たい」は、メタファー的意味の実現に違いが生じる。「熱い」は、「興奮」「怒り」に関する感情として概念化される。それに対して、「あたたかい」「冷たい」は親しみ、優しさ、想いやりなどの対人認知に関するものとして概念化される。

参考文献

- Grady, J. 1997a. "THEORIES ARE BUILDINGS revisited." *Cognitive Linguistics* 8-4, 267-290.
- Grady, J. 1997b. *Foundations of meaning: Primary metaphors and primary scenes*. Ph.D. dissertation, University of California, Berkeley.
- Kovecses, Zoltan. 2002 *Metaphor: A Practical Introduction*. Oxford: Oxford University Press.
- Lakoff, G. and M. Johnson. 2003[1980]. *Metaphors we live by*. Chicago: University of Chicago Press. (渡部昇一・楠瀬淳三・下谷和幸 (訳) .1986『レトリックと人生』哲学書店)
- 鍋島弘治朗. 2011『日本語のメタファー』くろしお出版
- 松浦光. 2017「現代日本語における気象現象の概念化：概念メタファー理論によるアプローチ」博士論文 名古屋大学
- 松村明. 2006『大辞林』第三版 三省堂

用例出典

KOTONOHA『現代日本語書き言葉コーパス』中納言 (BCCWJ)